

高・大・一般 漢字（楷書B）

※楷書A、Bは段級をとわず両方出品も可。

宮澤 鶴
（光明皇后）①
樂毅論



〈読み〉 燕の惠王に遺れる
遺燕惠王

解説
「樂毅論」（三四八年）は古来、東晉時代の書
聖王羲之の楷書として名高いのですが、真跡は
伝わっていません。ただし、奈良時代の光明皇
后が臨書した真跡が残っています。光明皇后は
聖武天皇の妃で、能書家としても知られ、
「樂毅論」「杜家立成雜書要略」が有名です。

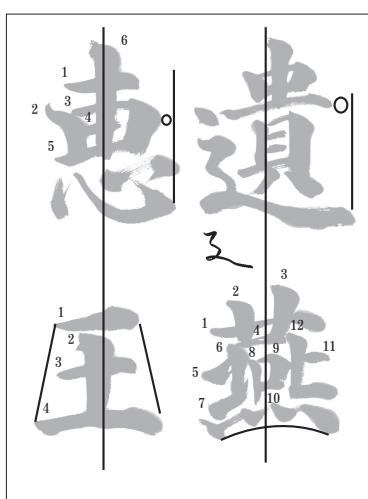
本号から三回にわたって採り上げる「樂毅論」
は小楷の臨書とはいえ、筆力が強く躍动感に富
み、筆を通してたくましく生きる姿が表現され
ています。

〈学習上の留意点〉

「遺」：「貴」の位置を確認してください。文
字の中心より少し右寄りです。シンニョウの二
画目から三画目の部分は切り離さず、回転する
ように連続しています。

「燕」：ほぼ左右対称形です。筆順に注意し、
点画を緊密に構築しましょう。

「惠」：筆順は旧字体「惠」の筆順を踏襲して
います。「心」の点が外にはみ出さないように。
「王」：縦画を十分に太くし字形の安定を図り
ましょう。



選択毛筆 [1月27日(金)必着]

歌意

こんなにたくさんある嬉しい事を何に包んで持つて帰ろうか、袂(たもと)にしまえるよう大きく仕立てよと言つておくのだった。

選歌理由 多事多難な年を振り返り、今年は嬉しい事がたくさんあるようにと願つて、年頭の歌とした。

揮毫上の注意 大字かな作品を書く時は、歌意も理解し易く、また雄大な表現ができるように、漢字と仮名を調和させて使うとよい。



半切に和歌を書く

〈釈文〉 う麗しき越 那尔(なに)、つ、末む 韩衣 多も登豊可に 裁てとい者万しを

〈出典〉 古今和歌集 雜上 (読人知らず)

行頭 「う麗し」は、途中休まず一息に。「し」は右端を通すこと。「越・那」の字間はやゝ広く間を取り、一呼吸するように布置する。

二行目行頭 「韓衣」は、古語辞典に外来の衣

珍しく美しい

衣服とあり
「韓衣・唐衣」

と表記されて

いたので、草書で韓衣と書き、行頭は縦に伸びる字形を使用した。「韓衣」のように単語は同一書体とするのがよい。行末の「裁てとい者万しを、雅印」まで一体のものとなるように布置

まとめ 印刷された手本では、墨色、墨量の変化を判断するのが難しい。特に仮名作品の線は潤渴の変化が大切です。今回は、含墨量を少なくして墨色の変化を出してください。

